

志木市議会議員 岩下りゅう

市政レポート

発行／岩下 隆

〒353-0004 志木市本町3-2-27
TEL.048-486-6138 FAX.048-471-3240 Eメール info@iwashita-ryu.club

経歴

昭和40年8月 志木市生まれ(58歳)
志木小、志木中、埼玉県立川越高校、法政大学経済学部卒、
令和2年4月、志木市議会議員初当選(現在1期目)、
総務厚生常任委員会委員長、志木地区衛生組合議会議員、
志木市議会の会派「しきの会」所属
(有)ニュータイムス社 社長
志木市商工会理事、商工会青年部OB、いろは商店会副会長、
前志木市廃棄物減量化資源化等推進審議会委員長など



岩下りゅう
Facebook
でも発信中!

●一般質問や会派要望等により前進する志木市の今後の事業

～令和6年度事業概要より～

☆志木地区児童センターの設計 ※新規事業

令和6年3月に策定する「志木地区児童センター整備基本計画」に基づき、子育て支援センターを併設した児童センターの整備に向けて設計を実施します。

[子ども支援課、令和6年度予算 175,000円]

☆ヤングケアラー家事支援事業の実施 ※新規事業

ヤングケアラーの実態を把握するためのアンケート調査結果に基づき、家事支援が必要と判断された家庭へヘルパーを派遣し、ヤングケアラーの日常生活における負担軽減を図るとともに、今後の家庭状況の改善に向けた働きかけを行います。

[子ども支援課、令和6年度予算 1,800,000円]

☆子ども医療費助成事業の助成対象の拡大 ※新規事業

子育て家庭の経済的負担を軽減するため、通院費の助成対象を高校生(18歳になった年度末)まで拡大するとともに、市税等の未納による適用除外を見直します。

[子ども支援課、同 32,349,000円]

☆志木っ子学校給食応援事業の実施 ※新規事業

令和6年4月から6月までの3か月間、小・中学校給食費を無償化するとともに、無償化期間終了後においても、令和7年3月までは、高騰する食料費の値上げ分についての補助を実施します。また、小・中学校に通う子どもを3人以上養育している世帯に対し、3人目以降の給食費を無償化します。

[学校教育課、同 150,024,000円]

☆小・中学校防犯カメラ更新工事の設計 ※新規事業

安全な教育環境を整備するため、小・中学校の防犯カメラの更新工事に向けた設計を実施します。

[教育総務課、同 5,412,000円]

☆防犯カメラ事業の拡充 ※新規事業

「犯罪に強いまち志木」のスローガンのもと、犯罪の抑止及び速やかな解決のため、令和5年度に引き続き防犯カメラ25台を増設します。

[市民活動推進課、同 17,693,000円]

☆带状疱疹ワクチン接種費用の助成 ※新規事業

加齢や免疫機能の低下に伴い、80歳までに約3人に1人が発症するといわれている带状疱疹を予防するため、発症率が高くなる50歳以上の方を対象に、带状疱疹ワクチン接種費用の一部を助成します。

[健康増進センター、同 2,768,000円]

☆子ども読書活動推進事業の実施 ※新規事業

子どもたちの読解力、思考力、表現力を養う読書活動のさらなる推進を図るため、小・中学生を対象とした「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催します。市立図書館と学校図書館が連携して調べ学習を支援し、子どもたちの学習意欲の向上を目指します。

[柳瀬川図書館、同0円]

☆郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備に向けた設計 ※新規事業

郷土資料館と埋蔵文化財保管センターを複合化し、新たな展示スペースや体験スペースを設けるなど、市民とともに郷土資料を総合的に活用するための拠点となる施設の整備に向け、令和6年度は設計を実施します。

[生涯学習課、同 29,665,000円]

☆地域スポーツレクリエーション補助事業の実施 ※新規事業

市民体育祭に代わり、新複合施設で予定している新たなスポーツイベントの開催までの間においても、地域におけるスポーツの推進とコミュニティの向上を目的として、町内会または複数の町内会が合同で自主的に行うスポーツイベントに対して新たな補助制度を創設します。

[生涯学習課、同 600,000円]

☆秋ヶ瀬スポーツセンター等の再整備に向けた設計 ※新規事業

利用者や利用団体のニーズを的確に捉えながら、柔道・剣道などでもできる機能も設置するほか、会議室や集会スペースを確保し、宗岡地区のコミュニティ拠点ともなる施設の整備に向け、令和6年度は設計を実施します。

[生涯学習課、同 44,000,000円]

☆地域農業の将来を考える地域計画の策定 ※新規事業

農地所有者の現状を把握するとともに、市街化調整区域における今後の営農継続に向けた支援策を検討するため、10年後の農地利用の状況を一筆ごとに記した地域計画を策定します。

[産業観光課、同 2,728,000円]

※この他にも新規事業は計33あり、「令和6年度 志木市予算及び事業概要説明」で見ることができます。



一般質問する岩下隆



好きです志木市！ 街づくり 人づくり

●未来に向けた希望のタネをまく！ ～オーガニックビレッジ推進を提案～

令和6年3月市議会定例会で私は、「町内会の加入向上をめざして」や「ホテルが自生する環境づくりに向けたオーガニックビレッジについて」を一般質問いたしました。

町内会の加入向上についてまず分かったのは、地域地域で事情の違いはありますが、おしなべて役員さんの高齢化が進み、高負担になっていること。市による町内会へのアンケート調査で9割が負担増などによって「志木市民体育祭の開催を希望しない」とのことでやむなく開催休止とのことでした。一方で、市民会館と市民体育館の新複合施設がこれまでの場所(本町1丁目)に新築され次第、新たなスポーツイベントを計画すること、それまでの間はスポーツレクリエーション事業を行う町内会には市から補助を実施するということが答弁により分かりました。

残念ながら、今年5月の新複合施設の建設入札に大手業者が辞退してしまったため、新スポーツイベントの開催は令和9年度には実現化出来ず、令和10年度以降になることが見込まれます。

私は、町内会を続ける意義の再構築と発信強化、児童・生徒や子育て世代から高齢世帯の方のためにも人と人がふれあう、楽しい機会づくりが必要だと考えております。

「オーガニックビレッジ」については、まずは本市においてもオーガニック給食の導入が「選ばれる志木市」の一つにもつながるため提言を続けております。これは、決してハイソ(高価)な給食にしたいということではなく、安心安全な食材の提供はもちろん、食農教育の向上や地域農業の復活にもつながるためです。フランスや韓国では既にオーガニック給食は進められており、日本でも120以上の自治体で始まっております。「JAもオーガニックでなければ生き残れない」という秋山JA陸奥組合長の言葉が心に響いています。

引き続き、オーガニック給食について、子育て世帯の方等の声も集めながら地道に活動をして参りますので、ご指導ご協力をよろしくお願い致します。



地場野菜を使用した志木市の学校給食も紹介(3月議会一般質問の私の撮影資料より)



市内の農家さんによると野菜の端材や流通されない野菜がたくさん出ますので、富士見市の事例等や市商工会とも連携しながら、そうした端材の活用も考えていきます

岩下りゅう公式ホームページもご覧ください！

※お問い合わせはホームページよりお願いいたします。
公式HP <https://iwashita-ryu.club/>

市政レポートのバックナンバー
動画等も掲載中！

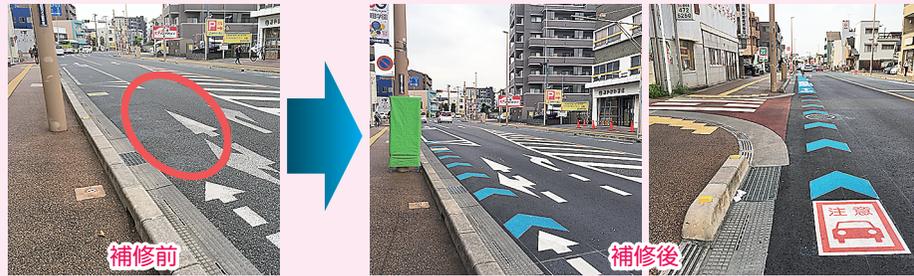
ぜひご覧ください！



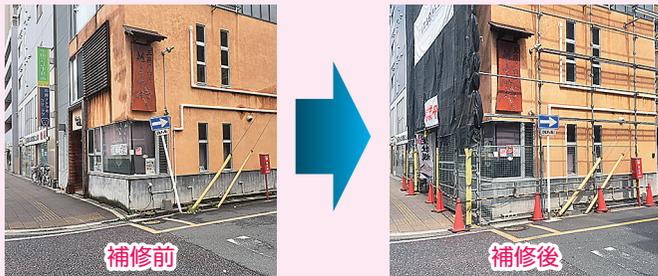
市政の主役は市民です！

1年間の成果についてご報告

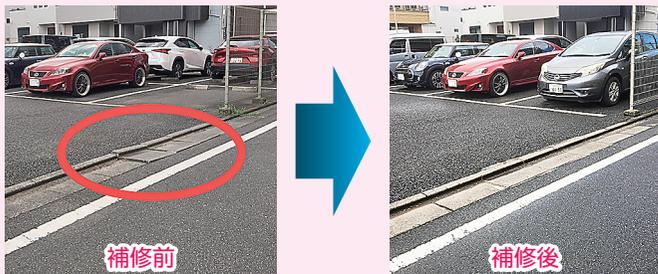
●令和5年5月、本町3丁目と1丁目周辺、県道中央通停車場線（バス通り）の車道の凹凸により揺れが発生し、鈴木県議と連携し埼玉県が道路補修整備。



●令和5年5月、本町5丁目の飲食店わきの市道にある標識が傾いてしまったため志木市と連携して朝霞警察署が補修整備。



●令和5年7月、幸町2丁目の市道沿い駐車場出入口に凹凸があって児童らがつまづくので志木市が補修整備。



●令和5年6月、いろは親水公園のウォーターパーク付近に反対側からも分かるような時計塔が志木ロータリークラブの贈呈により設置。「その時計塔が『子どもたちの笑顔、市民の元気を見守っている』



そんな思いで、市民に親しまれる『いろは親水公園』に向けて、これからも、志木ロータリークラブの皆さんと協力しながら、様々なアイデアを出していきたいと思っております。香川市長と時には大所高所から未来に向け、白熱した議論を交わしております！

●令和5年11月、本町2丁目の集合住宅前のL型側溝ふたなどに凹凸があり、夜間など危険なので志木市が補修整備。



い つまでも住みたい、人にやさしいまちづくり
わ くわくする学校生活！ あったかい子育て
し きに住んで、心身健康 生きがいづくり
た くましい活力・成長を！ 商工建設サービス業&農業



令和5年度の一般質問について自己評価

私は、市の守備範囲外など実現性のないことを質問テーマとせず、**政策の実現・課題解決**に力点を置き、特に**未来につながるテーマ**についてもチャレンジいたしました！

議会月	質問	実現性の高い答弁	各月の実現度※
6月	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者世帯をはじめとする市民の生活維持のため、物価高騰対策について ●オーガニックビレッジをめざして ●地域要望について（市内公園における時計の設置についてなど） 	<p>本市独自の取組として、令和3年度には、臨時福祉商品券事業やフードバンク事業の拡充、就労支援業務の強化を進めてきたほか、令和4年度には、生活困窮者向けの食支援事業、令和5年度には、生活困窮者就労準備支援事業に取り組んできた。</p> <p>高齢者や子育て中の世帯など、経済的に支援を要することが多くなりがちな世帯の把握については、生活相談を含む複合的な福祉の相談を受けている基幹福祉相談センターが対象者の年代や相談内容などを把握し、高齢者あしん相談センター、子ども家庭総合支援室など、関係する機関との連携を図りながら必要な支援を講じている。今後も、生活相談の内容を把握しながら、支援するメニューを充実させていく（福祉部長）。</p>	△
9月	<ul style="list-style-type: none"> ●学力向上の課題について（英語のスピーキング力等の向上のための取組についてなど） ●本市の食育について ●耕作が進まない土地の活用について ●地域要望について（「もくせい」の施設利用の申込方法、中心市街地の駐車場不足についてなど） 	<p>本市では、全小・中学校にALTを配置し、児童生徒の国際感覚や英語コミュニケーション能力を高めている。また、全小・中学校に外国語専科教員を配置し、3、4年生の希望する児童対象に「体験型外国語活動」（サマイングリッシュ）を実施。中学生徒に対しては、英語で弁論等を披露する「志木市立中学校英語学習発表会」の実施や、希望する生徒を対象とした「英語検定対策講座」でオンラインでのスピーキング力向上、英検の二次試験対策も実施している。</p> <p>今後は、ALTの派遣契約の一貫として、事業者の取組の一つである海外の学校とのオンライン交流の実施を予定しており、海外の同年代の子どもたちとの交流により、実践的な英語力の向上を図っていく。</p> <p>また、議員提案の「しき郷土かるた英語版」についてははかるたに書かれている内容やニュアンスを正確に英訳することが困難だが、大変ユニークな提案だと思うので今後研究していく（教育長）。</p>	○
12月	<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地の活性化について（トランスボックスアート化事業、志木街づくり会社のスペース活用についてなど） ●ヤングケアラーについて ●交通政策について ●地域要望について（市役所2階以上のフロアで来庁者対応、グランドテラスや駅前デッキ路上での弾き語りについてなど） 	<p>トランスボックスアート化事業は、ストリートファニチャーの設置、商店会と連携したイベントやマルシェを開催するなどして回遊性を高めていきたい。</p> <p>中心市街地新規出店支援センター内のスペースは、利用者同士の交流スペースや相談スペースとして普段は活用されているが、町内会や商店会等の会議やまちづくり関係の勉強会の場として、幅広くご利用いただくことは大変有効であることから、市としても大いに推進すべきと考えている。</p> <p>庁舎グランドテラスの利用規定の整備を進めているので、体制が整い次第、駅前広場の利用方法と合わせ、広く活用の事例を周知し、にぎわいの創出を図っていく（市民生活部長）。</p>	◎
3月	<p>施政方針に対する質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和6年度当初予算の編成について ●町内会の加入向上をめざして ●ホテルが自生する環境づくりに向けたオーガニックビレッジについて ●旧市道に建物がある箇所の対応について ●地域要望について（義務教育学校の第四小学校の活用について、本市の農業で発生する通常は食べない廃棄野菜の有効活用についてなど） 	<p>令和6年度の当初予算編成は、新複合施設の建設や館大排水路の改修、秋ヶ瀬スポーツセンター等の再整備にかかる設計など、投資的経費は対前年度比でおよそ22億円の増、予算総額の12.4パーセントを占める規模となっている。加えて、義務的経費にかかる充当一般財源額は対前年度比で約2億8千万円増加するなど、独自施策を進めるための財源確保には、何度も頭を抱えさせられた。</p> <p>しかしながら、徹底した選択と集中により真に必要な事業費として、耐震性能が不足している郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備など、30を超える新規事業を盛り込み調えた。</p> <p>公共施設マネジメント推進に伴う財政出動については、交付税措置のある有利な地方債を活用するなど、知恵を絞り工夫を凝らし、本市発展に向けた投資事業もしっかりと推し進め、多様化する行政ニーズに的確に答えていく（市長）。</p> <p>本市における農業従事者は、9割以上が兼業農家で専業は6軒。農家一件あたりの耕作面積が小さいため、有機農業のハードルは高い。そこで、まずは、農業に専念できる環境を整備するため、担い手の確保と、農地の集積と集約を進める。さらに、認定農業者制度を通じて、自らの創意工夫や経営の改善を進めようとする農家への支援を行っていく。</p> <p>議員ご提案の有機農産物に対する本市独自の認定の仕組みづくりについては、有機農業に取り組む農家を増加させる方策の一つであると認識している。まずは、農業に専念できる環境を整備し、今後は、独自認定の手法や収益性への寄与について研究し、本市農家の有機農業に対する関心の高まりを踏まえながら、独自認定の導入について判断していく（市民生活部長）。</p>	○

※実現度…私の質問意図からあくまで自己判定したものでありますので、答弁の質とは関係ありません。複数の質問の中で、実現が困難だったものが多かった△の月や、中長期的な取組として未来につながるきっかけになった◎の月もありました（岩下隆）。